

松 山 大 学 論 集
第 23 卷 第 3 号 抜 刷
2 0 1 1 年 8 月 発 行

「日商 PC 検定」を活用した情報資格教育について

小 西 敏 雄

「日商 PC 検定」を活用した情報資格教育について

小 西 敏 雄*

要 約

松山東雲女子大学では 2006 年度から日本商工会議所主催「日商 PC 検定試験」を受験者の希望に対応して随時実施している。2009 年度後学期からは、松山東雲エクステンションセンター（SEC）の社会人講座を活用して、社会人を対象として資格取得のための指導を行ってきた。学生についても夏期・春期休暇期間中に試験対策講座を開催している。過去 3 年間の検定試験受験結果を分析し、指導上の問題について検討を加えた。

1. 日商 PC 検定試験と実施状況について

松山東雲女子大学では 1999 年度より日本商工会議所主催の資格試験「日本語文書処理技能検定試験（ワープロ検定）」「ビジネスコンピューティング検定試験（ビジコン検定）」の学内試験を実施してきた。従来は筆記試験と実技試験により採点担当者が合否判定していたが、2006 年度より「日商 PC 検定試験」と改称し、採点が自動化された。実施はすべて PC 上で行われ、採点方法もプログラム化され、2 級・3 級については全国統一ではなく各試験場単位で随時実施できるようになった。本学では女子大学本館 3 階の「マルチメディア教室（本－3－1 教室）」を使用して、学生や社会人の試験実施の要望に合わせて、検定試験を実施している。

日本商工会議所のホームページには、表 1 のように試験の目的や概要が記載されている。

* 松山東雲女子大学

表1 日商 PC 検定試験の目的と概要

日商 PC 検定試験とは	
<p>今日、本格的なネット社会を迎え、情報通信ネットワークがビジネスインフラとして定着し、企業においてはパソコン等の情報機器およびこれにつながるネットワークの利活用が不可欠になっています。</p> <p>こうしたなか、企業実務に携わる人材として、パソコンソフト等によるビジネス文書の作成能力や業務データの処理分析・能力、さらにはネットワークを使いこなす事務能力や情報収集・発信能力が必要とされています。</p> <p>これを受け、日本商工会議所および各地商工会議所では、企業実務において IT（情報通信技術）を利活用する実践的な知識、スキルの修得に資するとともに、ネット社会に対応した新たなビジネススキルの育成を図るを目的として「日商 PC 検定試験」を創設し、平成 18 年 4 月から実施しております。</p> <p>本検定試験は、現在、各地商工会議所および PC スクールや教育機関、職業訓練校など全国 1850 以上の試験会場で受験可能となっており、インターネットを介して試験の施行から採点、合否判定を行うネット試験として施行されます。</p> <p>また、「日商 PC 検定試験」は前身となる 2 つの検定「日本語文書処理技能検定試験」と「ビジネスコンピューティング検定試験」を統合・進化させたものであり、両検定試験あわせて延べ 380 万人の受験実績と企業からの高い信頼・評価を継承したものとして、今後も企業ニーズに十分応えられる内容となっております。</p> <p>なお、本検定試験は、主としてビジネス文書の作成、取り扱いを問う「日商 PC 検定試験（文書作成）」と、主として業務データの活用、取り扱いを問う「日商 PC 検定試験（データ活用）」の二分野で、それぞれ独立した試験として施行します。</p> <p>試験科目は、「文書作成」、「データ活用」とともに「実技科目」、「知識科目」の 2 科目となります（Basic 除く）。</p>	
試験内容	
<p>企業実務における文書作成や表計算などのアプリケーションソフトの利活用能力を問うとともに、以下のとおりネットワーク環境下における IT の利活用に資する知識・スキルを問う内容となっています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業実務に必要とされるハード、ソフト等 IT 関連の知識を問う。 2. 企業実務におけるパソコン等 IT 機器、ネットワークの利活用について問う。 3. ネット社会における新たなビジネススタイル、ビジネススキルを問う。 4. ビジネス文書や業務データについて、その作成のみならず、保存、管理、検索、活用、流通、再利用などライフサイクル全般について問う。 5. IT を利活用した実践的なコミュニケーション能力を問う。 6. ネットワーク上での、ビジネス文書、業務データの取り扱いについて問う。 	
各級のレベル	
1 級	企業実務に必要とされる実践的な IT・ネットワークの知識、スキルを有し、ネット社会のビジネススタイルを踏まえ、企業責任者（企業責任者を補佐する者）として、経営判断や意思決定を行う（助言する）過程で利活用することができる。
2 級	企業実務に必要とされる実践的な IT・ネットワークの知識、スキルを有し、部門責任者（部門責任者を補佐する者）として、業務の効率・円滑化、業績向上を図るうえで利活用することができる。
3 級	企業実務に必要とされる基本的な IT・ネットワークの知識、スキルを有し、自己の業務に利活用することができる。
Basic	基本的なワープロソフトや表計算ソフトの操作スキルを有し、企業実務に対応することができる。
受験料（税込）	
1 級 10,000 円、2 級 7,000 円、3 級 5,000 円、Basic 4,000 円。	

本学学生には検定 2 級・3 級を目標にさせて受験を勧めてきたが、検定料が学生には高く感じるらしく、なかなか受験生が増えない。2009 年 6 月には日本商工会議所において学生の無料受験の機会を得た。予定した受験者数は 150 名であったが、90 名が受験し、そのうち 41 名が文書作成 3 級に合格した。合格者の割合は 45.6%であり、期待を下回った²⁾

文書作成 3 級はワードの試験であり、実技科目は「社外・社内文書の編集」である。ワードの編集、表作成・編集・修正ができるレベルであれば合格するので、比較的に取り組みやすい容易なレベルである。データ活用 3 級はエクセルの試験であり、関数やピボットテーブル、グラフ作成などの技術が必要であり、初心者には難しいレベルである。

これらの試験への合格レベルの学生・社会人を養成することの必要性を感じて、2009 年度後学期からは、東雲エクステンションセンター（SEC）の社会人講座を活用して、社会人を対象とした受験対策講座を開始した。また、学生についても夏期・春期休暇期間中を利用して試験対策講座を開催することにした。

今回は、2009 年度後学期以降の検定対策講座を経た受験者の合格状況と問題点について検討を加えた。2009 年度後学期から 2011 年 8 月末までの日商 PC 検定実施状況は、表 2 に示す。

2. 実施科目について

日商 PC 検定試験は前述したように「知識科目」「実技科目」からなる。

「知識科目」は 3 択問題が 30 問出題される。3 級試験で要求される能力は次のように提示されている³⁾

共通分野

- ・ ネット社会における企業実務、ビジネススタイルについて理解している。
- ・ 電子コミュニケーションの特徴と留意点を理解している。

表2 最近3年間の受験状況(2011年8月末まで)

年度	受験日	文書作成《2級》		文書作成《3級》		データ活用《2級》		データ活用《3級》		総計
		合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	
2009	2009/7/11								2	2
	2009/8/1							2	1	3
	2009/8/7		2					2	1	5
	2009/11/21							3	1	4
	2009/11/25							2	3	5
	2009/12/19			7	2					9
	2009/12/24					3		1	1	5
	2010/2/13	1		2	1	1				5
	2010/2/24	1	1	1						3
	2010/3/6		1							1
	小計	2	4	10	3	4		10	9	42
2010	2010/6/18			1						1
	2010/7/14								1	1
	2010/7/21							2		2
	2010/7/31				1				1	2
	2010/8/10			2	1					3
	2010/8/26							4		4
	2010/11/25							4	1	5
	2010/12/11			1				1		2
	2010/12/21					2				2
	2011/1/15						1	1		2
	2011/2/4							1	6	7
	2011/2/28			4						4
	2011/3/4		4	3						7
	2011/3/9		2	2						4
	2011/3/16	1	1							2
	2011/3/30	1								1
	小計	2	7	13	2	2	1	13	9	49
2011	2011/5/21				1					1
	2011/7/16					1		2		3
	2011/7/20					1		1		2
	2011/7/27					1			2	3
	2011/8/30			2						2
	2011/8/31				1					1
	小計			2	2	3		3	2	12
総計		4	11	25	7	9	1	26	20	103

- ・ デジタルデータの特徴, 単位, ファイルの種類, 記録メディアについて理解している。
- ・ 電子メールの特徴と仕組み, メール文の基本を理解している。
- ・ ホームページの特徴と仕組みについて理解している。
- ・ ハードウェア, ソフトウェア, ネットワークに関する基本的な知識を身につけている。
- ・ 社内ネットワークの活用 (グループウェア等) に関する基本的な知識を身につけている。
- ・ 情報セキュリティに関する基本的な知識を身につけている。
- ・ ネット社会における法律 (個人情報保護法, 知的財産保護法等), コンプライアンスに関する基本的な知識を身につけている。
- ・ ネット社会における環境と人への配慮について理解している。

文書作成分野

- ・ 基本的なビジネス文書 (社内・社外文書) の種類と雛形について理解している。
 - ・ 文書管理 (ファイリング, 共有化, 再利用) について理解している。
 - ・ ビジネス文書を作成するうえで基本となる日本語力 (文法, 表現法, 用字・用語, 敬語, 漢字, 慣用句等) を身につけている。
 - ・ ライティング技術に関する基本的な知識 (文章表現, 文書構成の基本) を身につけている。
 - ・ ビジネス文書に関連する基本的な知識 (ビジネスマナー, 文書の送受等) を身につけている。
- 等

データ活用分野

- ・ 取引の仕組み (見積, 受注, 発注, 納品, 請求, 契約, 覚書等) と業務データの流れについて理解している。
 - ・ データベース管理 (ファイリング, 共有化, 再利用) について理解している。
 - ・ 電子商取引の現状と形態, その特徴を理解している。
 - ・ 電子政府, 電子自治体について理解している。
 - ・ ビジネスデータの取り扱い (売上管理, 利益分析, 生産管理, 顧客管理, マーケティング等) について理解している。
- 等

「実技科目」は3級では30分, 2級では40分で, 与えられた問題に対してパソコンのソフトウェアを使用して答案ファイルを作成する。3級試験で要求される能力は次のように提示されている³⁾

文書作成分野

- ・企業実務で必要とされる文書作成ソフトの機能，操作法を一通り身につけている。
 - ・指示に従い，正確かつ迅速にビジネス文書を作成できる。
 - ・ビジネス文書（社内・社外向け）の雛形を理解し，これを用いて定型的なビジネス文書を作成できる。
 - ・社内の文書データベースから指示に適合する文書を検索し，これを利用して新たなビジネス文書を作成できる。
 - ・作成した文書に適切なファイル名をつけ保存するとともに，日常業務で活用しやすく整理分類しておくことができる。
- 等

データ活用分野

- ・企業実務で必要とされる表計算ソフトの機能，操作法を一通り身につけている。
 - ・業務データの迅速かつ正確な入力ができ，紙媒体で収集した情報のデジタルデータベース化が図れる。
 - ・表計算ソフトにより業務データを一覧表にまとめるとともに，指示に従い集計，分類，並べ替え，計算等ができる。
 - ・各種グラフの特徴と作成法を理解し，目的に応じて使い分けできる。
 - ・指示に応じた適切で正確なグラフ作成ができる。
 - ・表およびグラフにより，業務データを分析するとともに，売上げ予測など分析結果を業務に生かせる。
 - ・作成したデータベースに適切なファイル名をつけ保存するとともに，日常業務で活用しやすく整理分類しておくことができる。
- 等

3級レベルの実技科目では，ワード・エクセルの基礎知識があれば，時間はかかるけれども，無難にクリアすることができる。

文書作成3級は社内・社外文書が基本で，上司の指示に従い日時や場所，表内の項目の追加・変更などを行う問題が出題されている。データ活用3級は，100件程度の一覧表が基本で，上司の指示に従い，データを追加したり，与表からデータを抽出して集計し，グラフを作成する問題が出題されている。ピボットテーブルの技法を身に付けさせることで，完成までの時間は約2分の1に圧縮できる。

2 級は 3 級よりも高度な内容になる。文書作成 2 級は議事録メモから報告書を作成したり、提示されたデータを基にグラフ・表を作り、簡単なチラシを作成させる。データ活用 2 級では、複数の表から一枚の集計表を完成し、指示に合った集計表を完成させ複合グラフ・散布図を作る。データは多い問題だと 5,000 件程度与えられる。VLOOKUP 関数やピボットテーブルを多用しないと問題は解けない。さらに、ABC 分析などの手法を使って、各品目の特徴付けをしたり、販売戦略を考えさせる。まさに、3 級は一般社員、2 級は課長・係長クラス、を想定していると思われる。

2009 年後学期より松山東雲学園エクステンションセンターで開始した社会人講座は、次の 3 つの講座を連続して、毎週火曜・金曜の 19:00~20:30 に実施している。今年で 3 年目になる。

- ①「エクセル活用術・基礎編（日商 PC 検定 3 級まで）」 10 回開講
- ②「エクセル活用術・応用編（検定合格目標クラス）」 8 回開講
- ③「ワード活用術・基礎編」 8 回開講

①では、初心者用テキストを利用してエクセルの基本を身に付ける。開始してから 4 回程度で基本関数（SUM, AVERAGE, ROUND, ROUNDUP, ROUNDDOWN, IF）、並べ替え、グラフ作成、ピボットテーブルの使い方まで実習する。その後、公式検定テキスト（問題集）を使用し、問題演習と解説を行う。

②では、①を飛ばして受講する社会人のために 3 級の復習を 3 回程度行い、その後、2 級の公式検定テキスト（問題集）を使用し、問題演習と解説を行う。

③では、初心者用テキストを利用してワードの基本を身に付ける。しかし、エクセルと異なりワードは使っている方が多いので、基本は 1 回程度で終わる。あとは、コントロールキーを利用したコピー・ペーストなど便利技や表の編集について解説・実習し、その後、公式検定テキスト（問題集）を使用し、

問題演習と解説を行う。

①②の終了後、ほとんどの参加者は2級の問題を公式テキストを見ながら、自力で解けるようになっている。あとは、反復練習で技術を身に付けてもらう。③の終了後には、ワード2級にチャレンジする方も出現している。いずれの講座も、参加した方々には満足していただいている。現在の仕事のスキルアップになった方や、契機に転職した方もいる。資格を手にする事で、新しい夢にチャレンジする人も多いようである。

学生対象の夏期講習会は社会人講座の「エクセル活用術」の①②での内容とほぼ同程度のものを3日間、1日90分の授業を4コマ×3日の12コマ分で実施した。また、春期講習会は「ワード」に絞り、③の内容を2日間、1日90分の授業を4コマ×2日の8コマ分で実施した。学生についても、講習会後の試験合格率は高く、学生の資格取得に貢献できたと思われる。

3. 2009年度以降の結果の分析

2009年度以降の受験結果を分析した。表3は社会人の受験状況であり、表4は学生の受験状況である。

受験者数は少ないが、社会人のデータ活用分野の合格者を増やすことに、一応の効果が出ていると思われる。社会人講座を開講してきた結果、このように社会人の合格者が出現していると思われる。特に、データ活用2級は、受験者10名で、合格者9名という、素晴らしい結果になっていることがわかる。

また、学生については、「情報処理演習」の授業や夏期・春期講習以外で学習する機会が少ないため、どうしてもデータ活用の合格者が少ない。これは、今後の検討材料になるであろう。

表 3 最近 3 年間の受験状況（社会人）

年度	受験日	文書作成《2 級》		文書作成《3 級》		データ活用《2 級》		データ活用《3 級》		総計
		合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	
2009	2009/7/11								2	2
	2009/8/1							2	1	3
	2009/8/7		2					1	1	4
	2009/11/21							3	1	4
	2009/11/25							2	3	5
	2009/12/24					3		1	1	5
	2010/2/13	1		1		1				3
	2010/2/24	1	1	1						3
	2010/3/6		1							1
	小 計	2	4	2	0	4		9	9	30
2010	2010/7/14								1	1
	2010/7/21							2		2
	2010/7/31								1	1
	2010/8/10			2	1					3
	2010/11/25							4	1	5
	2010/12/21					2				2
	2011/1/15						1	1		2
	2011/3/4		2							2
	2011/3/9		1							1
	2011/3/16	1								1
	小 計	1	3	2	1	2	1	7	3	20
2011	2011/5/21				1					1
	2011/7/16					1		2		3
	2011/7/20					1		1		2
	2011/7/27					1			1	2
	2011/8/30			2						2
	2011/8/31				1					1
	小 計	0	0	2	2	3	0	3	1	11
総 計		3	7	6	3	9	1	19	13	61

過去 3 年間（2009 年 4 月 1 日～2011 年 8 月 31 日）のデータを集計して、合格者の割合を明らかにしたものが表 5 である。人数の右カッコは合格者の割合を表記している。

表4 最近3年間の受験状況(学生)

年度	受験日	文書作成《2級》		文書作成《3級》		データ活用《2級》		データ活用《3級》		総計
		合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	
2009	2009/8/7							1		1
	2009/12/19			7	2					9
	2010/2/13			1	1					2
	小計	0	0	8	3	0	0	1	0	12
2010	2010/6/18			1						1
	2010/7/31				1					1
	2010/8/26							4		4
	2010/12/11			1				1		2
	2011/2/4							1	6	7
	2011/2/28			4						4
	2011/3/4		2	3						5
	2011/3/9		1	2						3
	2011/3/16		1							1
	2011/3/30	1								1
	小計	1	4	11	1	0	0	6	6	29
2011	2011/7/27								1	1
	小計	0	0	0	0	0	0	0	1	1
総計		1	4	19	4	0	0	7	7	42

表5 合格する割合

	文書 《2級》	文書 《3級》	データ活用 《2級》	データ活用 《3級》
社会人	3 (30.0%)	6 (66.7%)	9 (90.0%)	19 (59.4%)
学 生	1 (20.0%)	19 (82.6%)	0 (0.0%)	7 (50.0%)
合 計	4 (26.7%)	25 (78.1%)	9 (90.0%)	26 (56.5%)

日商が2011年5月12日に「ネット試験インフォメーション vol.39」で配信したメールマガジンに平成22年度「日商PC検定」の試験結果が発表されている。これが次の表6である。

表6の結果をみると、データ活用2級の合格率が高くなっている。これは、問題がやさしいためではなく、試験が難しいので十分に解けるように練習して

表 6 平成 22 年度（平成 23 年 3 月末現在）の結果

《文書作成》

級	受験者数	合格者数	合格率
1 級	45	16	35.6%
2 級	4,377	2,442	55.8%
3 級	17,821	11,527	64.7%
Basic	1,865	1,713	91.8%
合計	24,108		

(平成 21 年度受験者数 22,501)

《データ活用》

級	受験者数	合格者数	合格率
1 級	31	9	29.0%
2 級	2,832	2,130	75.2%
3 級	11,258	7,763	69.0%
Basic	1,899	1,498	78.9%
合計	16,020		

(平成 21 年度受験者数 14,178)

から受験していることと、ピボットテーブルや VLOOKUP などの基本技が身に付けば合格しやすい、ことだと思う。

また表 5 から、学生はワード 3 級の合格者が多く、社会人はエクセル 3 級の合格者が多い。これも社会人講座でエクセルを最短コースで学習していることと、学生は合格しやすいものから受験することが多く（効率的？）、ワードが取り組みやすかったと思われる。

いずれにせよ、本学で実施しているスタイルの資格教育はとりあえずある程度の成果は出していると評価できると思う。

4. 不合格者の分析

過去 3 年間の試験の結果から、不合格者の分析を行った。成績を表 7 に示す。

表 7 で、点数が合格点に不足する部分に網掛けをした。2 級の検定試験については、実技科目で 70 点に足らない者が多く、これは実力不足または練習不足だと思われる。3 級の検定試験については、実技科目は合格点なのに知識科目で落とした者が意外に多いことが分かる。データ活用 3 級では、社会人が 13 名中 7 名（53.8%）であり、文書作成 3 級では、社会人 3 名中 1 名（33.3%）、学生は 4 名中 2 名（50.0%）である。この表から、実技科目は短期間の学習でも意外と点が取りやすいことが分かる。

知識科目は、前述したように、3 択問題で 30 問あり、70 点以上で合格なの

表7 不合格者の成績について

	職業	知識科目	実技科目
PC 検定（データ活用）《2 級》	社会人	85	5
PC 検定（データ活用）《3 級》	社会人	81	52
		80	60
		69	72
		69	90
		68	96
		68	76
		68	99
		65	83
		65	23
		64	69
		63	30
		62	42
		49	87
	学生	77	14
		74	15
		72	0
		56	7
		56	50
		54	43
		19	0
PC 検定（文書作成）《2 級》	社会人	96	5
		96	68
		91	68
		89	5
		83	67
		76	66
	学生	75	59
		86	59
		72	5
		69	68
PC 検定（文書作成）《3 級》	社会人	64	82
		84	56
		74	66
	学生	59	90
		74	39
		63	74
		62	60
		61	100

（注）網かけは70点に満たないものである。

で、 $30 \times 0.7 = 21$ 問以上で合格となる。9 問までは間違っても良いが、10 問間違うとアウトである。では、30 問中で自分が正解を出したと思える問題数に対して、何問くらいランダムで（一か八かで）選んで正解すれば合格するか、という問題を考えてみた。

当然のことながら、21 問正解できれば、合格であるので、正解の個数 N は 0 から 20 までの整数値とする。3 択問題なので、正解する確率は $\frac{1}{3}$ 、間違える確率は $\frac{2}{3}$ である。確率分布は 2 項分布に従う。30 問中 N 問 ($0 \leq N \leq 20$) 正解であれば、 $(30 - N)$ 問中で、 $(21 - N)$ 問以上正解であれば合格することになる。ゆえに、各 N に対して、

$$\sum_{K=0}^L {}_{30-N}C_K \left(\frac{1}{3}\right)^K \left(\frac{2}{3}\right)^{30-N-K} + N \geq 21$$

となる個数 L を求めればよい。 N 問は正解であることが確実な場合に、 $K = 0, 1, \dots$ とし上式左辺の値を計算したものが表 8 である。

表 8 によれば、たとえば $K = 15$ のとき、15 問は確実に解けたと確信するとき、残り 15 問から 4 問以上正解を得れば合格することになる。2 項分布を利用して、数学的にいえば、このような話になるが、本当は知識科目の対策を充分にしておいた方がよいということになる。

学生は、大学で開講されている「情報処理論」などの情報関連科目で知識科目対策の学習をすることができる。困るのは社会人の場合であり、そのような授業科目を学習する機会が極めて少ないと思われる。ワードやエクセルは技術的に使いこなせても、知識科目で点数が取れなくては合格できない。今年(2011 年度)の前学期の講座に、70 歳を超えた男性の方が参加されたが、「パソコンは無難に使いこなすが知識科目は何を覚えても良いかわからないので困る」と言っておられた。日商監修で知識科目の問題集は出ているが、100 問程度しか出題されていない。さらに、当然のことながら、問題は毎年アップデートされ

表8 N 問解けたときに K 問解ける可能性

$\begin{matrix} N \\ K \end{matrix}$	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
0	11.01	12.01	13.02	14.02	15.03	16.05	17.07	18.09	19.13	20.17
1	11.09	12.12	13.16	14.22	15.29	16.38	17.50	18.65	19.83	21.04
2	11.46	12.59	13.75	14.95	16.19	17.47	18.80	20.17	21.58	22.99
3	12.49	13.83	15.22	16.66	18.14	19.66	21.19	22.72	24.20	25.59
4	14.57	16.16	17.78	19.43	21.06	22.66	24.18	25.58	26.82	27.87
5	17.69	19.42	21.12	22.75	24.28	25.66	26.86	27.87	28.66	29.23
6	21.32	22.95	24.46	25.80	26.95	27.91	28.65	29.20	29.58	29.80
7	24.69	25.98	27.08	27.98	28.68	29.19	29.55	29.77	29.90	29.97
8	27.22	28.06	28.72	29.20	29.54	29.76	29.89	29.95	29.98	30.00
9	28.77	29.22	29.54	29.74	29.87	29.94	29.98	29.99	30.00	30.00
10	29.54	29.74	29.86	29.94	29.97	29.99	30.00	30.00	30.00	30.00
11	29.86	29.93	29.97	29.99	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00	
12	29.96	29.98	29.99	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00		
13	29.99	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00			
14	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00				
15	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00					
16	30.00	30.00	30.00	30.00						
17	30.00	30.00	30.00							
18	30.00	30.00								
19	30.00									

ていて、過去の問題集が対応していないものが出題されることもある。

ホームページで問題集の内容を掲載することも考えてみたが、著作権の問題があるので無理である。地道にプリントを作って配ることも考えてみたりしたが、プリント作りが大変な作業であり、なかなか良いアイデアは生まれない。いずれにせよ、対策講座を活用して、技術面での70点以上は反復練習で獲得できるから、社会人に知識科目の点数を取らせる工夫をすることが重要である。これは学生についても同様であり、情報関係の授業などで、より幅の広い正確な知識を身に付けていく必要がある。

5. お わ り に

今回は過去3年間の松山東雲女子大学での日商 PC 検定試験の実施状況を分析して、今後何が必要であるのかを考察した。社会人は、資格取得を目的に大学を利用する。編入学や大学院進学は高額な費用が発生するが、社会人講座であれば少ない費用で希望する資格が取得できる。生涯学習の一環として資格取得を援助することは大学の大切な役割ではないかと考える。今後も、資格取得を目指す社会人を応援していきたいと思う。

謝 辞

石田徳孝先生とは1988年に完成した松山東雲短期大学D館のPC教室の視察に来られたときに初めてお会いしました。その後、先生のご指名で、1997年より、松山大学で非常勤講師として「プログラミングI」を6年間、その後、「コンピュータ通論」を現在も担当させていただいております。「プログラミングI」の折には、授業後に声を掛けていただき、当時、流行のPerl言語のことをお話しした記憶があります。この授業ではPerl言語によるプログラミングをやりました。Webページ上の双方向ツールとしてのPerl言語は、現在ではWiki言語などの普及により表面から見えない場所に居ますが、今なお活用できる実用ツールです。最近は「コンピュータ通論」で情報メディアやスマートフォン等に関する最新の知識を学生に提供し、学生に満足感を与える「使える」授業を目指しています。

今回、このような形で記念すべき論文集にその一部として掲載していただくことを心より感謝いたします。石田先生は広島大学工学部卒で、私は広島大学理学部卒です。学部や専攻分野の違いはあれ、先生のご専門は情報関連で、さらに、ORや統計処理、データ解析に関係する分野ということでとても心強い先輩だと思います。今後ともよろしくお願いします。どうも有り難うございました。

参 考 文 献

- 1) 日商 PC | 商工会議所の検定試験, <http://www.kentei.ne.jp/pc/news.xml>, 2011年9月27日。

- 2) 小西敏雄, 「日商 PC 検定」を活用した情報処理教育の可能性について, 松山東雲女子大学人文科学部紀要, 18: 15-27, 2010。
- 3) 日商 PC (文書作成・データ活用) 3 級出題範囲 | 商工会議所の検定試験, <http://www.kentei.ne.jp/pc/hani/3qhani.html>, 2011 年 9 月 27 日。